

令和3年度日南市立油津中学校 学校評価報告書

4段階評価(A:期待以上 B:期待どおり C:やや期待を下回る D:改善を要する)

重点目標	重点目標達成のための手段	評価項目	評価指標(具体的方策)	学校の自己評価	学校の自己評価コメント	学校関係者評価コメント
学力の向上	確かな学力の定着を図るための油中サイクルの充実	「わかる・できる」授業の実践	油中サイクルの実践とタブレットを活用した授業研究の取組をとおして、日々「わかる・できる」授業を確実に実践する。	B	今年度から生徒1人1人にタブレットを配付し、各教科の授業の中で小テストをしたり、自分の意見をカードに書き込んで提出したりする学習活動を取り入れることができた。また、生徒総会などの学校行事でも積極的にタブレットを使用するなど、授業以外でもタブレットを有効に活用することができた。職員に対しては、職員研修等でタブレット使用の技能について研修を行った。今後、タブレットを使った「わかる・できる」授業の実践を重ねて、成果を上げていきたい。	〇昔からすると相当コンピュータ化が進んでいる様子が見える。今後、子どもたちは当たり前のようにコンピュータを使いこなせるようになるのではないかと。
		家庭学習の充実	「がんばりノート」の取組をとおして、授業と家庭学習の連携を図る。	B	今年度は年度始めに学習指導集を実施することができた。がんばりノートの使用方法等について説明や指導を行うことができ、昨年度以上に工夫した学習や内容の充実が見られる。保護者よりも生徒の評価が少し下がっているのは、各教科の日々課題や週末課題の提出ができていない生徒が各クラス20%程度いるためである。改善が必要な生徒と一致している。今後は、確実に提出させて達成感や提出する喜びなどを体験させたりして学習意欲の向上の手立てを講じていきたい。	〇タブレットの利用が増えるにつれて、文字を書く機会が減るのではないかと。書くことで覚えることも多いのではないかと。ノートも併用することを続けて欲しい。
		社会的、職業的自立に向けて必要な資質を身に付けるためのキャリア教育の充実	キャリア教育をとおして、「将来の夢を明確にもち、今必要なことに努力する態度」を育てる。 校内外のボランティア活動や地域行事への参加をとおして、社会的自立に向けた資質を育てる。	B	各学年、地域のことをテーマに探究活動を行った。第1学年では、地域を知ることをメインに活動し、第2・3学年では、自分たちの班の「問い」をもとに探究し、日南市や地域への提言をまとめた。コロナ禍ということで、探究活動に協力していただいた事業所等だけの案内になってしまったが、来年度はできる限り多くの人に聞いていただき、大人の方から忌憚のない意見をいただくことにより、思考の仕方などより成長すると考える。それらをとおして、社会に貢献する人としての感性を磨く活動につなげていきたい。 ボランティア活動については、生徒総会で決まったSDGsに向けた取り組みを行うことができた。具体的には、梅ヶ浜の海岸清掃を昼休みの時間を使って行った。他にも地域のボランティア活動に率先して参加する生徒が多かった。校外では、油津地区協議会と協力してEM菌養液の製作やおもてなし花壇植栽、堀川イルミネーション準備・撤去などのボランティア活動に多くの生徒が参加して、地域のために貢献することができた。今後も地域活動に貢献していきたい。	〇生徒たちは、地域のボランティア活動によく協力してくれている。地域としても大変助かっている。 〇ボランティア活動をとおして地域のことを知って欲しい。また、地域の問題点についても考えて欲しい。
豊かな人間性を育むための道徳の授業の充実	道徳の授業の充実	相手の気持ちを大切にすることを育み、豊かな人間関係の醸成のために、道徳の授業の実践を図る。	相手の気持ちを大切にすることを育み、豊かな人間関係の醸成のために、道徳の授業の実践を図る。	A	道徳の授業方向性として校内研修を実施したり、発問や教材の研究に生かせる資料を準備したりして、様々な形態の「議論する道徳」をつくりあげることができた。生徒も道徳の授業を楽しみにしており、積極的に議論をしたり、自分の考えをしっかりと文章で表現したりできるようになってきた。その結果、生徒・保護者の学校評価が9割以上であった。今後も継続して、授業の工夫に努めていきたい。	〇いじめについては相手によって受け止め方が異なるので、定義が難しいのではないかと。
		学級担任と副担任の連携による主体的・対話的な道徳の授業の実践を図る。	学級担任と副担任の連携による主体的・対話的な道徳の授業の実践を図る。	A	年間計画に沿って、学年職員チームでローテーションTTを実施しているため教師の授業力も向上している。毎回授業の進め方を熱心に協議したり、打合せをしたり、準備を分担したりしてチーム力も向上している。今年度は、12月に参観授業で全学年道徳の授業を行った。保護者には、人権教育(いのちの教育)について啓発することができ、道徳の授業に対する高い評価につながっている。来年度も継続していきたい。	〇この時代、ネット(SNS)でのいじめも多くなるのでは。文字だけの力で与える印象もより強いのではないかと。人権感覚をしっかり育てて欲しい。
		学級担任と副担任の連携による主体的・対話的な道徳の授業の実践を図る。	学級担任と副担任の連携による主体的・対話的な道徳の授業の実践を図る。	B	前期の生徒会役員は、新型コロナウイルス感染症で活動に制限がある中でも、学校行事に前向きな姿勢で活動することができた。特に、生徒総会では自分たちがSDGsの取組に何か貢献できることはないかと考え、海岸清掃等を行うことができた。後期の生徒会役員は、スクールワイドPBSを意識した委員会活動を計画予定しており、今後の取組につなげていきたい。	〇コロナ禍で子どもたちの活動が減って、意欲はあり数少ない中でもしっかりと取り組みたい。
		生徒会が主体となったあいさつ運動やゴールドモーニングの取組の充実を図る。	生徒会が主体となったあいさつ運動やゴールドモーニングの取組の充実を図る。	B	生徒会主催のゴールドモーニング(挨拶運動)にも、毎回多数の生徒が参加した。また、各専門委員会が各種コンクールを主催するなど、委員会独自の取組も行われ、保護者、教職員のアンケートの結果は数値が伸びている。また、後半は、あいさつとともに地域の方と一緒に花壇の草取り活動にも取り組んだ。今後も感染症対策に気をつけながら、活動を行ってきたい。	〇あいさつは、子どもたちに求めるのではなく、まずは大人からすすめてほしい。子どもたちは、あいさつをすればほとんどあいさつを返してくれている。
		毎月いじめアンケートを実施し、実態把握に努めることができた。アンケートを家庭に持ち帰って実施するなど工夫した。また、アンケート後は、実態把握のために結果を全職員で共有した。組織的かつ、丁寧に対応することができた。12月には人権週間を設定し、参観授業で人権に関する授業を行った。また、人権に関する作文を給食時に放送するなどして、関心を高めた。生徒のアンケート結果を見ると数値が6ポイント向上していた。今後も生徒の実態に応じた指導を継続していきたい。	〇地域での子どもたちの居場所がだんだん少なくなっている。地域で子どもたちを見守る居場所の確保が必要ではないかと。			
豊かな心の育成	「認め、支え合う」ことの大切さに気付かせる生徒指導や特別活動の充実	人権教育の充実	毎月のいじめアンケート実施や人権教育をとおして、いじめの早期発見や予防を図る。	B	年間を通して、計画的にソーシャルスキルトレーニングを含めた活動を行うことができた。各学年で授業前にシミュレーションを行い、生徒の興味・関心を高める工夫を行ってきた。生徒は授業に意欲的に取り組み、学習した内容について日常生活の中で意識している多くの場面を見かけた。生徒が実施の意義を感じていくことがわかる。アンケートの結果は、80%前後であるが、これからはコミュニケーション力の向上を図ってきたい。	
		NCPの充実	NCPの計画的な実施をとおして、コミュニケーション力の向上を図る。	B		
		命を大切に育てるための性や交通安全、防災教育の充実	交通安全教室やPTAと連携した登下校指導等をおして、登下校中の事故をゼロにする。	B	市全体で取り組んでいる「性に関する指導」を全学級、計画的に実施することができた。学級担任だけでなく、学年職員や養護教諭と連携して取り組めた。また、夏季休業中に基礎研修を実施し、職員の意識を高めることができた。授業をとおして生徒も生命の大切さについてしっかりと学ぶことができた。次年度も性に関する教育の充実を努めたい。	〇子どもたちは、登下校はしっかりと並んで登校している。マナーもよい。
		命を大切に育てるための性や交通安全、防災教育の充実	避難訓練や防災教育をとおして、災害時の避難場所や避難の仕方の徹底を図る。	B	集会等で自転車等の安全に関する注意の呼びかけを行った。また、PTAと連携して行った下校指導では、保護者が協力的で円滑に実施することができた。1年生の自転車通生の中から毎年荷物や重く転倒の不安があがっていたが、学校に置いてよい教材を増やすなどの対策をし、今年度は改善されている。アンケートの結果から、生徒の交通安全に関する意識は高いが、さらに啓発を行ってきたい。	〇今後朝食を食べて来ない子どもの状況をしっかりと把握していく必要があるのではないかと。今のうちに関係機関とも連携して、改善策を考えておくことも大切である。
健康を大切にするための食育や保健指導の充実	健康を大切にするための食育や保健指導の充実	食育の充実	給食の時間や食育の授業等をおして、食事の大切さや栄養のバランスについて理解させる。	B	年度当初の委員会活動において、生活のリズムの点検活動を行った。その際朝食についてもチェックし、ほとんどの生徒が何らかの食事をとっていることが把握できた。昼の放送で、本日のメニューを紹介したり、残量調査等をおして食に対する関心を高めたりする取組も行った。また、栄養教諭との連携を図り、食育指導も計画的に行うことができた。今後は授業も取り入れていきたい。	
		虫歯治療率の向上	フッ化物先口や歯の健康に関する指導をとおして、虫歯治療率を80%以上に上げる。	A	フッ化物先口はコロナの影響で中止した月もあったが、実施できる時は誤飲に気をつけながら全職員で関わる事ができた。また、むし歯も治療率を上げるために、治療動向書を定期的に配付して個別に受診を促したり、放送で治療済みのクラスや部活を知らせたりして啓発を行った。担任や部顧問の協力を得ながら、学校全体で治療率向上に取り組んだ。1月現在むし歯治療率92%で4名は治療中。引き続き根強く受診を促していきたい。	
		一人一人の確かな学びがめきめき細やかな指導の充実	特別支援教育の視点による授業づくり	授業のユニバーサルデザイン化やスクールワイドPBSの取組をとおして、一人一人の生徒の学びを保障する。	A	授業のユニバーサルデザイン化を全教職員で研修し毎日の授業で取り組んでいる。また、昨年度より取り組んでいるスクールワイドPBSについても、研修を行い、教員の特別支援教育力が向上してきている。スクールワイドPBSの取組は、月1回、内容を変えながら、ABUCHUプロジェクトとして取組を継続させている。今年度は生徒会の委員会の目標にも行動目標を取り入れ、全校で取り組んでいく。成果としては、人との関わりに関する項目が向上し、一人一人を認め合える雰囲気が出てきた。個別の関わりが必要な生徒に対して、どのような関わりが必要か、今後の課題であり、全教員でその対策を考えながら取り組んでいる。
特別支援教育の推進	生徒の学びを支援するための家庭、地域、関係機関との連携	種通信等の配付やホームページ掲載、学級懇談等をおして、生徒の状況を保護者と共有し、連携に生かしている。	種通信等の配付やホームページ掲載、学級懇談等をおして、生徒の状況を保護者と共有し、連携に生かしている。	B	昨年度と比べると+7%と評価は上がっている。7月の評価より2%下がっている。年間を通して学校だけでなく学年・学級通信を通して情報の共有を図って、新型コロナウイルス感染症予防対応のため、学校行事やPTA活動などが制限され、保護者との交流が減ったことが影響したと考えられる。重要なお知らせはマチコメールで行うことで効果を上げているので、新入生にも早めの登録を目標していきたい。	〇保護者も相談できることはよいことである。積極的に相談窓口の周知や窓口の拡大も行って欲しい。
		スクールカウンセラーや巡回相談員を効果的に活用するために、生徒指導支援担当が窓口となり、計画表作成し、スクールカウンセラーとのフィードバック、学級担任や養護教諭への報告を行った。保護者のカウンセリングも行い、子育てに悩むを抱える家庭の心のケアを行った。関係機関と連携し、生徒や保護者を支援することで生徒の学びの支援につながった。今後は、スクールカウンセラー便り等を活用しながら保護者、生徒への啓発を図ってきたい。				